

令和7年度学校評価アンケート結果（全日制課程）

[育てたい生徒像]

主体性を持ち、自ら考えて行動でき、社会に出て活躍できる生徒

I 学校運営

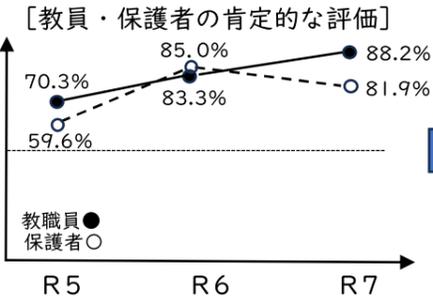
(1) 地域に信頼される学校づくり

[魅力ある、地域に信頼される開かれた学校づくりの推進]

- ① 学校行事や生徒情報を家庭や地域社会に月に1回以上発信
- ② HPの更新と内容の充実
- ③ 生徒会活動、HRや部活動等の教育活動を通して、自発的な態度の育成
- ④ 地域行事の積極的参加と地域の核となる人材の育成

[改善方策と対応]

- ・HPの更新を各担当が積極的に行い、生徒の取り組みや様子を広く発信する。
- ・義士祭や他の地域の行事に参加し、地域貢献を実践する。



[次年度への改善方策]

- ・これまでのHPの更新等を定着させる。
- ・学校説明会やオープン・ハイスクール等の内容をさらに内容を見直しながらかつていく。

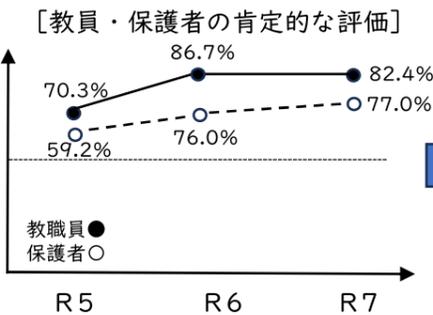
(2) 生徒指導

[生徒指導の方針と指導体制の推進]

- ① 登校指導において遅刻防止と挨拶励行
- ② 部の指導方針の下、日常生活指導等、全職員で統一した指導の徹底
- ③ 関係機関（警察、青少年育成センター等）との連携と、問題行動の未然防止と早期対応
- ④ 校内の教育相談体制の整備

[改善方策と対応]

- ・朝の登校時の挨拶運動を生活委員会の生徒とともに行うことで生徒の主体性を育む。
- ・生徒支援部を基軸に共通理解と周知、丁寧な説明を教職員や生徒・保護者に対して実施する。
- ・生徒の主体性を醸成するための“部活動自治研修会”を実施する。



[次年度への改善方策]

- ・校則はルールだから守るのではなく、校則(ルール)の意味を理解した上で、守れるように指導を行う。またその上で、改正すべき校則は見直しに向けた検討を行う。

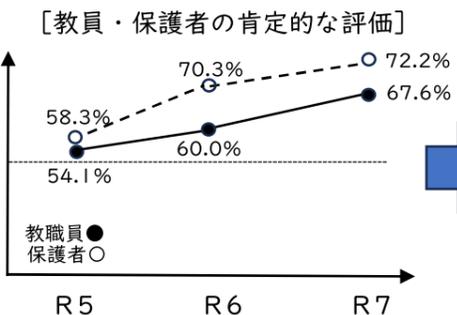
(3) 進路指導・キャリア教育

[職業観・勤労観の育成と進路意識の向上]

- ① 進路意識やキャリア教育の向上（講演会、座談会、体験学習の内容の充実と進路通信、各種情報誌、キャリアノートの利活用）
- ② 家庭学習の定着と自己管理能力の向上（「未来手帳（生徒手帳）」の活用方法の研究）

[改善方策と対応]

- 講演会、座談会等と普段の指導との関連を深め、生徒にとってより向上を図れる内容構成となるように研究する。
- 生徒が進路目標を明確にし、その実現に向けた計画的な取組ができるように学年と教科、進路指導部が協働するよう心掛ける。



[次年度への改善方策]

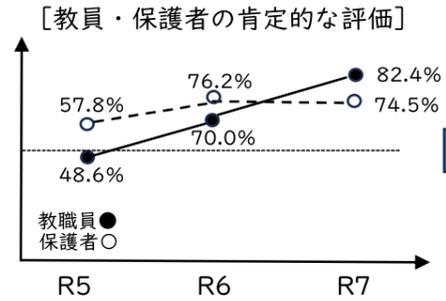
- 進路指導部が学年・教科と協力し、講演会等と日常の授業を結び付けながら、生徒が自分の進路を主体的に考え、計画的に取り組めるよう支えていく。

(4) 教職員の資質向上

[指導力の向上]
 ① 各部・各委員会の研修会の実施
 ② 授業力の向上（公開授業等の研修）
 ③ 研究授業の実施



[改善方策と対応]
 ○ 校外研修の報告、公開授業週間以外での授業見学、探究の見学等を実施する。
 ○ 外部講師を招いて生徒・教師の成長につながる研修会をもつ。



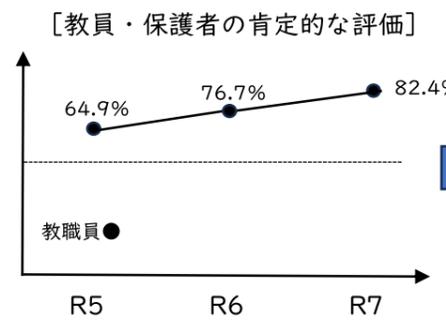
[次年度への改善方策]
 ○外部講師からの助言、授業振り返りシート等の活用により、生徒が主体的に学ぶ授業実践を目指す。
 ○校外研修の報告を行い、最新の実践事例等を職員間で共有する。

(5) 防災・危機管理体制の整備

[教員の防災・安全教育に係る指導力向上と、地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進]
 ① 危機管理マニュアルの適宜改訂（行政や地域との連携）
 ② 防災避難訓練（地震・津波・火災の想定）について、行政、地域、関係機関との情報交換と連携体制の構築
 ③ 交通安全に関し、社会の一員として自覚ある行動と事故の防止



[改善方策と対応]
 ・防災避難訓練における関係機関との連携を継続する。
 ・講演会で自衛隊の被災地での活動の様子を聞くことで実際の災害の状況を知る。
 ・危機管理マニュアルの見直しを適宜、実施していく。



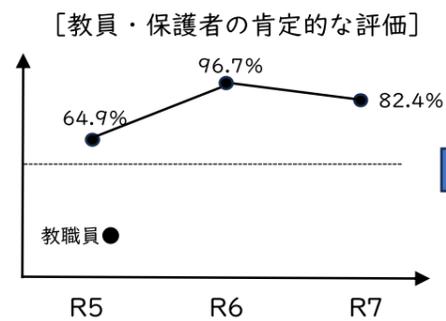
[次年度への改善方策]
 ・校内での避難訓練をより場面設定を意識させて実施させる。
 ・講演会等で実際の災害時の状況などを理解できるように企画、運営していく。

(6) いじめ防止・早期発見早期対応

[いじめのない学校づくり]
 ① いじめアンケートを実施（学期に1回）、早期発見・早期解決の体制づくり
 ② 教育相談等に関して、全職員の連携と生徒の内面的理解。それに基づく生徒指導の推進。
 ③ 校内組織体制（いじめ対策チーム）の構築



[改善方策と対応]
 ・日々の生徒観察、個人面談、いじめアンケートを継続して実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努める。
 ・いじめアンケートの項目で「学校生活に満足できていない」と回答した生徒には個人面談を行い、サポート体制を整える。



[次年度への改善方策]
 ・いじめの早期発見を目的とした、いじめアンケート・個人面談等を引き続き実施。
 ・いじめにつながる要因が SNS 上で起きていることも多々見受けられるので、関係機関と協力しながら情報モラル講演会を実施し、SNS の正しい利用方法を身につけさせる。

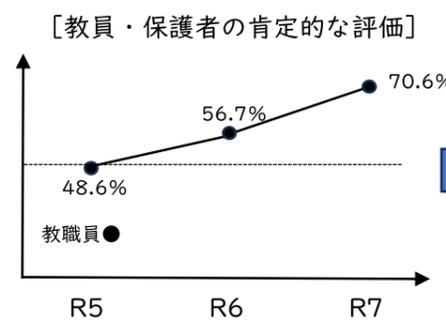
2 教育課程

(1) 自ら学び自ら考える力の育成

[探究活動の実践と特色類型の充実]
 ① 全教科において、主体的、対話的で深い学びの手法を取り入れ、体験的な学習または問題解決的な学習についての授業展開
 ② 学力向上を目的とした指導の推進（「未来手帳」の活用）
 ③ 総合科学探究類型について、体験活動の充実とその発展



[改善方策と対応]
 ○ 各教科で、生徒が喜びとやる気を感じながら学び考える授業を探究する。期間によらず研究授業・公開授業を実施し、生徒・教師が振り返りを取り入れて双方向の授業を実施する。
 ○ 未来手帳、タブレットの長所・短所を見極めながら日々の生活を振り返り、生徒の意識と学力の向上へとつなげる。
 ○ 本年度実施した内容を精選し、新類型へつなげる。

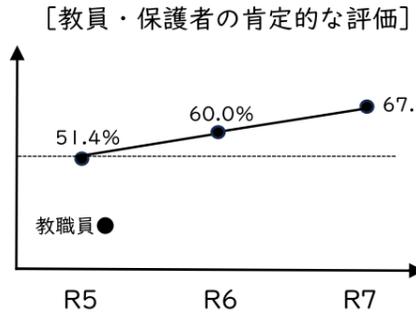


[次年度への改善方策]
 ○常に授業見学ができる態勢づくりを目指す。
 ○未来手帳を活用し、日々の振り返りと気づきの記録により、見えない学力の向上を図る。
 ○授業振り返りシートの質問項目をさらに精選し、生徒の振り返りだけでなく、教師の授業改善にも活用する。

(2) 総合的な探究の時間

[「総合的な探究の時間」の実践]
 ① 探究活動を通して、在り方・生き方を踏まえ、課題発見、解決する資質・能力の育成
 ② 総合科学探究類型について、3年間を見据えた企画の立案と実施、また、その改善の推進

[改善方策と対応]
 ① 探究サイクルを通じて、生徒が自ら課題を見つけ、情報を根拠に基づいて分析考察する力の育成に取り組んだ。
 ② 系統性を検証するため成果物・実施記録など、指導に関わるデータの蓄積を重点的に行った。

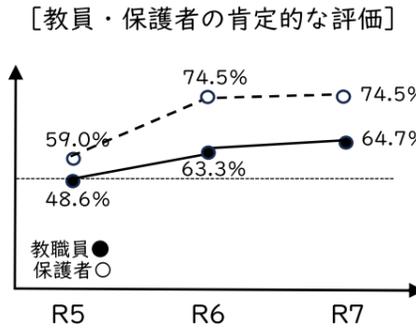


[次年度への改善方策]
 ①課題設定・調査計画段階の指導を重点化し、探究の質を安定して高める。②蓄積データをもとに学年間の接続を再整理し、探究の系統性を明確化する。活動内容と到達目標の整合性を見直し、より効果的な年間計画へ改善する。

(3) 個に応じた学習指導の徹底

[学力の把握と指導の方法や形態の工夫]
 ① 「ひょうご学力向上研究事業」を活かし、各教科について、生徒に応じた指導方法の実践
 ② 習熟度別のクラス編成や授業を行い、教育効果を高める。
 ③ スタディーサポート、模試、入試結果について、適切な分析と進路指導方法の改善

[改善方策と対応]
 ○ 日々の学習指導を徹底させて、本校生の実態に応じた取組を検討する。
 ○ 習熟度別授業や分割授業を活用して、さらに効果が出せるように工夫する。
 ○ 今後も、教育課程編成の検討等を行う。



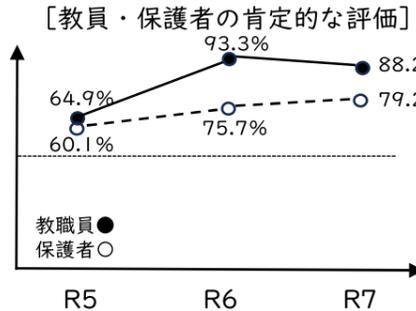
[次年度への改善方策]
 ○各教科において、スモールステップの学びを通して、学びの喜び、成長の喜びを生徒に感じさせる授業プランを考案する。
 ○選択科目の内容の精選。

3 課題教育

(1) 健康・安全教育

[生徒の実態に即した学校保健の立案と実施]
 ① 定期健康診断の事後措置を行うことで、早期受診促進と疾病予防

[改善方策と対応]
 ○ 生徒が安全で健康な学校生活を送れるよう他部署と連携し、保健安全教育研修会を実施し生徒の健康・安全意識を深める。
 ○ 検診後の事後措置により、受診を促す。
 ○ 引き続き感染対策・予防の徹底を図る。
 ○ 保健委員会の活動を通じて、安全健康意識を高める。

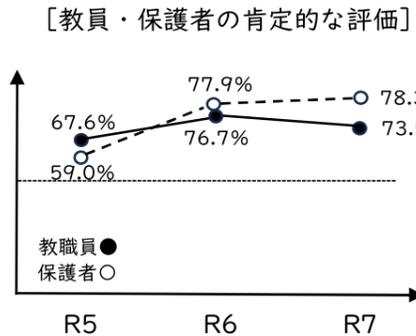


[次年度への改善方策]
 ○引き続き、健診後の事後措置により、早期受診促進を図る。
 ○感染症対策、予防の徹底を図る。

(2) 人権教育

[人権についての意識の向上と基本的な理解]
 ① 学校の教育活動の中で、他人を思いやる気持ちの育成
 ② 命を守る等の人権意識の高揚といじめのない学校づくりの推進
 ③ 人権教育講演会やLHRを通し、豊かな人間性や社会性の育成

[改善方策と対応]
 ・各学年に応じた人権教育の取り組みを継続する。
 ・生徒の心に残る内容の講演会等を通して、差別と人権に対する意識を深めていく。



[次年度への改善方策]
 ・生徒の心に残るような内容を元に人権意識の向上をさせる。
 ・学年ごとの人権教育の目的に合わせた内容の充実。

(3) 情報教育

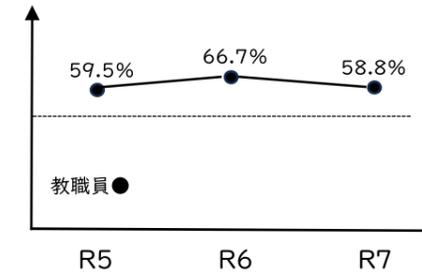
[情報モラルの育成と情報機器の適切な利用の推進]

- ① 情報モラル(個人情報、知的財産、情報セキュリティ等)の知識理解
- ② 情報について、正しく発信する等の処理能力の育成
- ③ 生徒会を中心にルール策定と情報マナーの向上

[改善方策と対応]

- ① 1年生は4, 10月のHRの人権学習で情報モラルを実施。2年生は、情報1の授業において、個人情報、知的財産、情報セキュリティ等についての情報モラルは、授業において実施。
- ② 1年生は4, HRの人権で情報モラルを実施。2年生は、情報1の授業において、個人情報、知的財産、情報セキュリティ等についての情報モラルは、授業において実施。
- ③ 各学年集会等で情報マナーについての話を盛り込んだ。

[教員・保護者の肯定的な評価]



[次年度への改善方策]

- 来年9月に生徒会で情報モラルの講演会を実施予定。
- 全学年で生徒会を中心として個人情報、知的財産、情報セキュリティについての周知活動を実施。
- 各教科においても個人情報、知的財産、情報セキュリティの内容を盛り込んでいただく。

(4) 体験活動

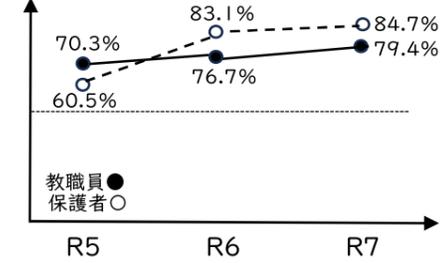
[ボランティア活動や福祉体験の推進]

- ① 赤穂特別支援学校との積極的な共同学習の推進
- ② 校内外のボランティア活動、保育施設でのふれあい育児体験、地域行事の補助、高齢者福祉施設での交流等の活動の推進と、自己有用感の育成

[改善方策と対応]

- 活動前後の広報を工夫することにより周知し、ボランティアに関わる教職員・生徒を増やす。
- 地域課題を探究的に解決する学習の重要性を認識し、授業に取り入れる工夫などの研究を進める。
- 赤穂市内のボランティア活動は、積極的に行っていく。
- ボランティア体験を行うことにより、生徒達の意識が変わるので、今後も続けていきたい。

[教員・保護者の肯定的な評価]



[次年度への改善方策]

- 生徒自らが積極的に参加できるよう、ボランティア活動、福祉体験についての学習を充実させ、ボランティア活動を生徒へ周知していく。